

<目指すべき姿(目標・成果)>

- 共生と復興に向けた地域づくり【目標:地域コミュニティの維持・再構築】
- 正確な情報発信と交流による「いわきの今」への理解促進【目標:震災前の観光客入込数(年間約1000万人)の回復(現状 H26:約775万人)】
- 魅力あふれる地域の創生【目標:中心市街地の賑わい再生】

<管内の現状>

いわき市では双葉郡等からの避難者約2万4千人を受け入れており、津波被災者、原発避難者、地元住民が混在する状況が長期的に続いている。

依然として風評の影響を受けている観光や農林水産物の風評払拭に向けた取組・情報発信を強化する必要がある。

原発事故により、管内の主要産業のひとつであった観光業、水産業は深刻なダメージを受けている。

中心市街地において、被災建物の取り壊し跡地の低利用化が急速に進み、魅力低下に拍車がかかっている。

<管内の課題>

避難生活の長期化や復興公営住宅等への入居開始などにより、コミュニティの維持及び交流促進へのより一層の取り組み。

県内外での農林水産物の安全性PRや地域の復興状況など正確かつ効果的な情報発信の継続。

観光業及び水産業の復興に向けた積極的な取組の実施、いわきの地域イメージの回復。

既存の建物等の老朽化への対応、既存ストックを活用した中心市街地活性化、被災建物跡地等の低未利用化の抑止。

<H27事業の計画>

①地域経営分

事業名:いわきの復興を担う地域コミュニティ重点支援事業(事業費 24,998千円)

【目的】

それぞれの立場の住民が交流できるイベントの開催や住民団体等が実施する交流活動への支援を行い、いわき地域における被災者・避難者同士及び地元住民との交流を促進し、コミュニティの維持・再構築を図る。

【事業概要】

- ・被災者と地元住民の交流促進事業
被災者支援サロンの運営者と利用者、地元住民などが一堂に会する大交流サロンフェスタの開催や、スポーツ・昔遊び等を通してのイベントの実施により交流機会の拡大を図る。(開催予定数:2回)
- ・住民の自主交流活動支援事業
住民団体等が実施する交流活動に対する活動費の補助。

【ねらい】

被災者支援・交流サロンの周知や利用促進、復興公営住宅等における自治会の早期立ち上げなどにつなげる。

【効果】

被災者・避難者の孤立化防止、地元住民や自治会等との円滑な交流。



②過疎・中山間連携事業

浜通りの復興に向けた多様で活発な交流促進事業

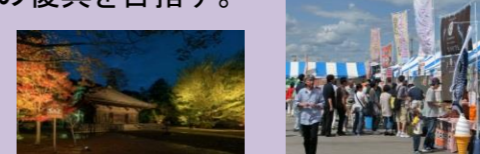
首都圏等における他振興局との合同物産展の開催やモニターツアーの実施、現地視察受け入れ等によりいわきの復興状況や安全性を正確に発信する。



③一般枠(民間等)

カジキグルメサミット開催事業等

DCの開催に併せた白水阿弥陀堂のライトアップや、いわきに縁のあるカジキのグルメイベントを開催し、カジキグルメの普及を図ることにより、いわきの観光交流人口の増加、新たな地域イメージの創生、水産業の復興を目指す。



④市町村枠

中心市街地活性化基本計画策定事業

東日本大震災の前よりも賑わう中心市街地を創生するため、平地区における「中心市街地活性化基本計画」の策定等の取組を行い、市街地の活性化を図る。

